

GREEN RANGER NEWS

2021年5月号

Vol.327



NPO 法人蔵王のブナと水を守る会事務局
〒989-0231
宮城県白石市福岡蔵本字滝下102
URL <http://www.zao.org/>
e-mail mail@zao.org

■4月の活動報告

【定例会】4月11日(日) 樹木名板取替え、マイツリーの測定(56本)

天気最高、花も最高かと意気揚々と林に入ってみる。カタクリは色褪せ、スハマソウはほとんど花を閉じている。また季節が早まっているのかと愕然としてると、飛んでる！ヒメギフチョウ、今年も会えました。今日の作業、樹木名板取り替えにリス・アナグマの森へ2班に分かれて出発。マイツリー測定班も1本何分かかると午前中には終わらないかもと出発する。が、お互い、作業が順調に進み、午前中に終わった。午後、8m以上の樹木調査の結果、全体的に大幅に多くなっていることが発表された。そして35周年記念誌発行の打ち合わせは、侃侃諤諤、いい雰囲気。ふと、2015年5月に設置した森づくり自然園の観察路案内板の作成した日々を思い出す。いいものを作るため久しぶりに本音で意見交換、しばしコロナ禍と歳を忘れた。その後、天気もつたいないと彩遊の森へ散策に。キブシは満開だが、コブシはもう少し。園内でもこの木は早咲きという自慢のオオヤマザクラもわずかに開いているだけ、来週は満開かも、期待したい。動物観察班から先月のM6.9の地震でもアナグマが引っ越さず、健在と報告あり。参加者:12名



【定例会】4月25日(日) 8m以上の樹木調査、樹木名板取り替え

朝、4号線を蔵王に向かう途中に水引入道がくっきり見えていたが、作業小屋に着くころには雲がかかり見えなくなってしまった。雨が降るのを心配したが、ほんのわずかにばらついただけで活動には影響がなかった。気温が低く風が強かったため、かなり寒かった。午前中に動物生態観察用のカメラを、4つの森に1台ずつ設置した。小鳥の森のカメラは、巣箱を狙うキテンを想定し、餌に鶏肉を使った。撮影できるかどうか、2週間楽しみに待つことにする。午後は彩遊の森の散策。桜通りではオオヤマザクラなどの桜類が咲き、ブナやカエデなどが葉を開き始めた。クロモジの蕾やミツバアケビの可愛い花、足元にはタチツボスミレが咲いている。ブナの森の春は本当に美しい。散策の途中で、ミツバアケビの棚を修理する。今年は何のくらい実をつけてくれるだろうか。秋が楽しみ。久しぶりに秦さんが参加。井戸水をくみ上げるポンプのモーターが停止しない為、業者への連絡を秦さんに依頼。出始めたコゴミを収穫し帰宅した。(参加者6名)



■5月の活動案内

[定例会]

集合時間 5月9日(日) 10時
集合場所 作業小屋
内 容 植物観察 山菜採り

[森の教室]

集合時間 5月23日(日) 10時
集合場所 作業小屋
内 容 樹木名板作りと取り替え、ヤマツツジ・ウワミズザクラ観察

■6月の活動案内

[定例会]

集合時間 6月13日(日) 10時
集合場所 作業小屋
内 容 ヤマハンノキ間伐、ヤマボウシ・ニッコウキスゲ・アザミ類観察

[森の教室]

集合時間 6月27日(日) 10時
集合場所 作業小屋
内 容 枝打ち

■「リスの森」、「アナグマの森」、「彩遊の森」3つの森の8m以上の樹木の調査報告を次ページに掲載しました。植栽木の成長の様子を数字でご確認ください。

3つの森の8m以上の樹木調査報告

仲村 得喜秀

リスの森（約 2.5 ha）、アナグマの森（約 2.5 ha）、彩遊の森（約 8ha）、この3つの森での8m以上の樹木調査は、2017年度から行っている。2017年度調査では、彩遊の森の調査はできなかったので、表ではその部分が欠落している。一番面積の広い彩遊の森の数が一番少ないというのは、土壌条件の差と思われる。リスの森とアナグマの森は畑の跡地への植林で、土壌は肥沃であった。彩遊の森はススキや笹のはびこる原野であり、土壌はやせ地だった。この違いが、そのまま植林木の成長の違いとなって表れていると思われる。

以下がその表である。

各森の8m以上の年度別本数

場所/調査年度	2017年	2018年	2019年	2020年
リスの森 (2.5 ha)	7	44	100	179
アナグマの森 (2.5 ha)	10	90	182	239
彩遊の森 (8.0 ha)	?	18	49	124
年度別本数	17+?	152	331	542

2017年度から調査を始めた理由は、各森の成長が見た目でも実感できるようになったからである。また、1つの目安として20年位の雑木林を想定していたので、高さ10m以上・胸高直径20cm以上という数字をイメージして、そろそろ計測を始めてもいいのではないかと思ったからでもある。

この数字を見ると、この森がいかに急激に成長しているかがよく分かると思う。2002年が植林開始年であるので、植林木はまだ若い木という事になる。人間も中学生から高校生の頃は急激に背が伸びるが、この植林木たちも伸び期になっていると言ってもいいと思う。調査した実感から言うと、8mに迫る木はまだまだたくさんあるので、来年は2,000本に迫るのではないかと思われる。

この森の林床では、たくさんの実生苗を見ることができる。風や鳥や動物が遠くから種子を運んでくるものもあるが、多くは植林木が開花結実し、その種子からのものである。サクラの仲間、ドングリの仲間、カエデの仲間、カバノキの仲間、8mにはなっていないが、コブシやヤマボウシも開花結実しているのである。

全てがうまくいっている訳ではないが、植林したことに対して、責任は果たしつつあるのではないかと考えている。会員をはじめ協力してくださった多くの方達にこのような報告ができることをうれしく思っている。彩遊の森の成長が悪いように思われがちであるが、決して悪くはなく、やせ地なりに一定した伸びを見せているので、何の心配もないと考えている。尚、この調査では、パイオニアプラントであるヤマハンノキや、スギ、カラマツなどの針葉樹は入っていないので、これを入れると、この何倍もの数になると思う。

コロナ禍でストレスが溜まっている人がいたら、ぜひこの森に遊びに来てください。フィトンチッドやアルファ-ピネンなど天然の癒し成分がこの若い森にはあふれているはずですよ。